

十二種若菜

若菜 薊 菘 芹 蕎 薺 葵 芝 蓬 水蓼 水雲 松
菘 河海

白河院仰云、松字如何、師遠申云、若松菘、上皇被仰云、相具松進上、此僻事也。

古保和名

〔河海抄〕十二種若菜 若菜 薊 菘 芹 蕎 薺 葵 芝 水蓼 水雲

若菜

アサ

菘

此中菘ハ様々人説あり、白河院に松を奉りける人有ける例事也と仰あり、大外記師遠は小大根のよし申ける説を用られ候由、舊記に見ゆ。

〔雍州府志〕水菜 東寺九條邊專種之、元不用糞穢、而引入流水於畦間耳、故稱水入菜、或謂麻俱利菜。倭俗每物拂盡謂麻俱留、農民採此菜自田地之本至田末、次第麻久利登留、凡此菜成熟後、不堪久用之故然。略 中勢多判官家領在九條、每年載水菜於臺、插梅花於其上、獻禁裏院中、近年東寺僧亦破生竹插水菜以藤蔓約束之、贈人家。

〔浪花の風〕また二日正月は未明より水菜を賣りくこと、市中囂し、是二日はすまし雜煮故なり。

〔續山の井〕上鶯菜付水菜

花ならで籠に入たる水菜哉

〔一話一言〕京大坂江戸の名物を讀侍る狂歌

越前府
玄甫

京 水 水菜 女 染物 みすや針 御寺 豆腐に 鰻體 松茸
〔常憲院殿御實紀〕天和三年十二月八日、此日兩山の靈廟に京菜を進薦せらる。

〔毛吹草〕山城 水菜 近江 兵主菜。

〔妙法寺記〕永祿二年 同年四月十五日、大水降、夕顔茄子麻稗殊ニ鶯菜悉打折、何モ無シ、大麥ハ半分コボシ候。

〔續山の井〕上鶯菜